

## 救急講習会とイベントを開催しています

☒詳細 消防本部警防課 ☎@9138、☎@9182

### 普通救命講習会

毎月9日、消防本部6階講堂または消防署において、午後1時～5時までの4時間で行っています（平成30年度の日程は右の表を参照）。

救命処置のビデオ放映、心肺蘇生法、自動体外式除細動器（AED）の使用法、窒息の手当て、止血の方法などを学びます。

講習の最後には効果測定と実技試験を実施します。また、修了者には修了証を発行します。

▶申し込み 開催日の10日前までに申請書を消防本部警防課へ  
※申請書は消防本部警防課で配布するほか、ホームページからも入手できます。

普通救命講習会日程	
とき	ところ
9月9日(日)	消防署(勝納町10-1)
10月9日(火)	消防本部(花園2-12-1)
11月9日(金)	
12月9日(日)	消防署(勝納町10-1)
平成31年1月9日(水)	消防本部(花園2-12-1)
平成31年2月9日(土)	消防署(勝納町10-1)
平成31年3月9日(土)	

講習を受講した皆さんに感想を聞きました  
●とても勉強になりました。止血法なども学べて、よかったです。  
●人が倒れていたら、助けたいと思いました。  
●以前受講しましたが、内容を忘れていました。再度確認できてよかったです。  
高齢者の多い職場で働いている方、勤務先の講習として受ける方、就職のために受ける方などが受講しています。皆さんもぜひ、受講してみませんか？



講習修了者に発行される修了証

AEDを使った救命処置の実技練習

### 救急・救命体験イベント「救急の広場」

9月9日は「救急の日」です。平成30年は9月9日(日)～15日(土)を救急医療週間として、9月9日(日)に「救急の広場」を開催します。「救急の広場」では、AEDの使用法や心肺蘇生法の体験、119番通報模擬体験、脳年齢測定コーナーなどを開設しますので、この機会にぜひご利用ください。

▶とき 9月9日(日)の午後2時  
▶ところ ウイングベイ小樽5番街1階ハイタッチコート



AEDの使用体験

119番通報模擬体験

### 一般救急講習会

受講者団体の要望により、救急に関するビデオ放映や心肺蘇生法、一般的なけがに対する応急処置の講習を1時間程度で行います。

緊急出勤があった際は講習会を中断することもあります。ご了承ください。

▶とき・ところ 申し込みの際に相談  
▶申し込み 事前に申請書を最寄りの消防署、支署、各出張所へ  
※申請書は消防署・支署、各出張所で配布するほか、ホームページからも入手できます。

### 消防フェアin朝里2018

災害時の実践的な行動と防災に関する知識を学ぶ機会として、「見る・聞く・ふれる 消防体験」をテーマに行います。

▶とき 9月23日(日)の午前10時～正午  
【第1会場】 消防署朝里出張所車庫内(新光1-8-14)  
消防車・救急車の乗車体験、放水体験  
【第2会場】 同出張所隣接地(新光1-8-4)  
はしご車の乗車体験、応急処置・消火器の取り扱いの紹介、住宅用火災警報器の展示、消防団活動の紹介など  
☒詳細 消防署朝里出張所 ☎@8104

## その119番本当に救急ですか？ 救急車の適正利用にご協力を！

### 救急車をタクシー代わりに利用するのはやめましょう

救急車は、緊急を要する患者を搬送するためのものです。しかし、軽い病気やけがなどで緊急性が低い症状で、歩ける方の救急要請が見受けられます。市内には5台の救急車しかありませんので、本当に必要な方が利用できる環境をつくるために、本当に救急車が必要か見直してみませんか。

平成29年は、救急搬送された方のうち、入院を必要としない方の割合が約34.9%でした。その多くは119番通報した時点では症状が悪く、病院での治療の結果、大事には至らなかったものです。

しかし、中には本当に救急車が必要であったか疑問に思う例もあります。

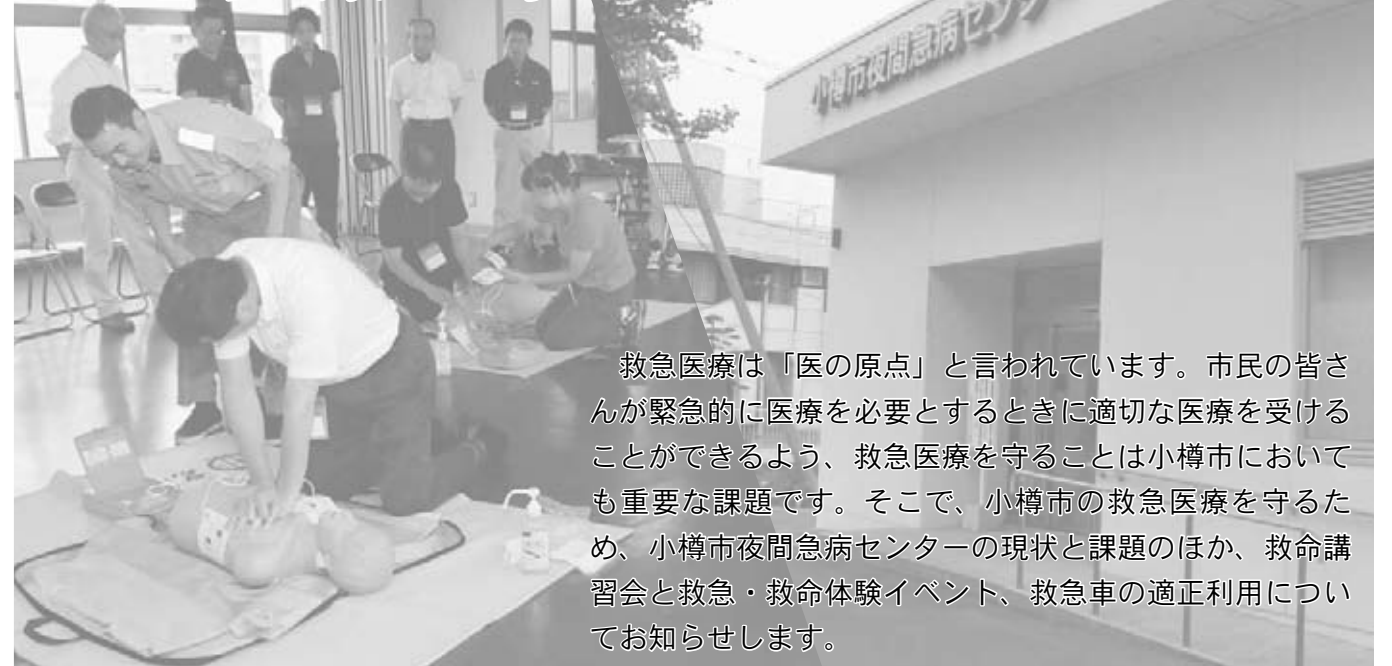
例) 玄関に肩をぶつけました・歯磨き中に出血し、止まらなくなりました・はさみで手を切りました・足がつかまりました・足にとげが刺さりました・足の指をぶつけました・飼犬に手をかまれました・・・など

このような利用は、本当に救急車を必要としている方への対応を遅らせてしまう恐れがあります。119番通報をする前に、本当に救急車が必要な状況なのかを判断してください。

大切な命を救うため、救急車が本当に必要な方が利用できるよう、皆さんのご理解とご協力をお願いします。



## 救急医療を守るために



救急医療は「医の原点」と言われています。市民の皆さんが緊急的に医療を必要とするときに適切な医療を受けることができるよう、救急医療を守ることは小樽市においても重要な課題です。そこで、小樽市の救急医療を守るため、小樽市夜間急病センターの現状と課題のほか、救命講習会と救急・救命体験イベント、救急車の適正利用についてお知らせします。

### 夜間急病センターは救急対応が目的です

小樽市では、主に軽傷の患者を対象とした夜間の初期救急医療機関として、小樽市夜間急病センターを小樽市医師会に依頼して運営しています。道内では、平成30年4月1日現在で小樽市以外に15カ所の夜間等の急病センターが設置されています。

小樽市夜間急病センターでは、内科・小児科・外科の初期救急診療を行っており、道内の中でも、体制が充実しています。

一方で、急病センターの課題は、多額の運営費がかかること(左と右下の表を参照)や医師の確保などが挙げられます。夜間の初期救急医療を守る

平成29年度 小樽市夜間急病センター 運営費および患者数	
年度末人口	11万7924人
運営費	2億2741万円
市民一人当たりの運営費	1928円
患者数	うち内科4381人 外科1859人
患者一人当たりの運営費	3万6444円

※小数点以下切り上げ

平成29年度小樽市夜間急病センター患者受診状況			
患者数	1カ月平均		1日平均
	午後6時～9時		
内科	2131人	178人	6人
外科	1014人	85人	3人
午後9時～翌日の午前7時(日曜日、祝日は午前9時)			
内科	2250人	188人	6人
外科	845人	70人	3人

※小数点以下切り上げ

### できるだけ日中の診療時間内に受診を

急病センターは、あくまでも救急対応が目的であり、薬も原則1日分のみ処方します。「患者が少ないから」「昼間は仕事があるから」などの理由で、救急医療機関を利用すると救急外来が混み合い、本当に治療が必要な患者への対応が十分にできなくなる恐れがあります。

日中の診療時間内は、診療体制が充実しており、詳しい  
急病センターは、あくまでも救急対応が目的であり、薬も原則1日分のみ処方します。「患者が少ないから」「昼間は仕事があるから」などの理由で、救急医療機関を利用すると救急外来が混み合い、本当に治療が必要な患者への対応が十分にできなくなる恐れがあります。

診察や検査が受けられます。また、診療時間外の受診は医療費が高くなる場合もあります。また、「かかりつけ医」を持つことも大切です。「かかりつけ医」とは、病気の初期医療や健康に不安を感じたときに相談できる、身近な診療所などの医師のことです。

### 電話相談やホームページもご利用ください

【土・日曜日、祝日の当番病院】  
テレホンサービス(録音による音声案内)です。  
受付時間：【土曜日】午前7時～午後6時  
【日曜日、祝日】午前9時～午後6時  
☎@4618 (小樽市夜間急病センター)  
【北海道小児救急電話相談】  
看護師や小児科医師が電話で助言します。  
受付時間：午後7時～翌日の午前8時  
☎011 (232) 1599 (「#8000」で利用できます)  
【北海道救急医療・広域災害情報システム】  
受診可能な医療機関情報を24時間提供します。  
☎0120 (20) 8699 (ハローキューキュー)  
☎011 (211) 8699 (ハローキューキュー)